

取扱説明書

ダクタイル製Y形ストレーナ

DF-510

目次

	ページ
1. 概要 2
2. 製品名 2
3. サイズ 2
4. 仕様範囲 2
5. 構造と特長 3
6. 運搬及び保管 3
7. 配管要領 3
8. 使用上の注意 3
9. 点検及び保守 4
10. 分解・組立要領 5
11. 交換部品 6
12. アフターサービスについて 6
13. 構造図 7

はじめに

この度は、宮入バルブの製品をご採用いただきまして、まことにありがとうございます。本取扱説明書を良くお読みになり、内容を理解された上で本機器をご使用くださいますようお願い致します。また、必要に応じて利用できるよう、お読みになった後も手元に置かれることをお勧め致します。

1. 概要

液化石油ガス設備、一般高圧ガス設備の配管の中に、土砂、鉄屑などのごみが入った場合、配管が詰まる恐れがあるのと同時に、各種バルブ、機器類が損傷する危険性があります。これを防止する目的でストレーナが使用されます。これは、内蔵する金網によってごみを濾過し、溜ったごみを排除できる構造になっています。

2. 製品名

- | | | |
|----------|-------|---------------|
| (1) 品名 | | ダクタイト製Y形ストレーナ |
| (2) 型式 | | DF-510 |
| (3) 図面番号 | | B-57024-25 |

3. サイズ

15A、20A、25A、40A、50A、80A、100A

(注)呼びはフランジサイズです。

4. 使用範囲

取付前に、必ず次の仕様を確認の上ご使用下さい。

- | | | |
|------------|-------|-----------|
| (1) 使用流体 | | LPG(液、ガス) |
| (2) 設計圧力 | | 2.35MPa |
| (3) 設計温度 | | -5~120°C |
| (4) 耐圧試験圧力 | | 3.9MPa |
| (5) 気密試験圧力 | | 2.35MPa |
| (6) 接続仕様 | | JIS20K RF |
| (7) 本体材質 | | FCD-S |

注意

これは標準仕様です。使用範囲が本仕様と異なる場合は、ご注文成約時の図面に記載されている仕様及び製品の検査成績表の内容と照合し、仕様の範囲内であることを確認した上でご使用ください。

5. 構造と特長

- (1) Y形ストレーナは、Y形の形状を有するボディにスクリーンを内蔵したもので、スクリーンの取付角度はボディ中心線に対して 45° になっており、流体抵抗を小さく、ボディ総高さを低くするよう設計されております。
- (2) ボンネットを取り外すことにより、スクリーンを取り出しごみを排除できる構造になっております。
- (3) プラグを取り外し、内部の状況を点検し、ごみを排除することも出来ます。

6. 運搬および保管

- (1) バルブを落とす、倒す、投げる、引きずる等の乱暴な取り扱いで、強い衝撃を与えないでください。漏れ、故障の原因となります。
- (2) 運搬及び保管は、荷姿のままで、ゴミ、ほこり、雨等がかからないようにしてください。
- (3) バルブフランジのパッキン座面には、フランジガードが貼ってありますが、砂、ゴミ等が入り漏れ及び故障の原因となりますので、取付け直前まで取り外さないでください。また、配管取付けの際は必ず取り外してください。

7. 配管要領

- (1) 取付の際は、配管内およびフランジ面の切粉、溶接スパッター、スケールなどを充分清掃してください。
- (2) ストレーナには流れ方向がありますので、ボディの表示によって方向を確認して配管してください。
- (3) ドレン抜きプラグが下になるように取付けて下さい。また、スクリーンを抜き取るためのスペースを確保しておいてください。
- (4) バルブを配管する際は、フランジに貼ってあるフランジガードを必ず取り外してください。
- (5) バルブフランジと配管フランジの間に、流体に適合したシール剤を塗布したガスケットを、ずれの無い様に正しい位置に挟み込んで、取付けてください。
- (6) フランジボルトは対角線上のものから交互に均等な力で締め付け、片締めの無いように注意してください。
- (7) バルブは自重および操作時の力によって、配管または取付け部に無理な荷重がかからないように、バルブまたは配管を支持してください。
- (8) バルブは、配管の膨張、収縮、地盤沈下、地震などによって無理な力を受えないように取付けてください。

8. 使用上の注意

- (1) ストレーナには流れ方向がありますので、ボディの表示のより方向を確かめて、間違いに無いように取付けてください。
- (2) スクリーンにごみが詰まると、流体抵抗が大きくなりますので、定期的にごみを排除してください。
- (3) ごみ排除の周期は、流体の状況により異なりますので、取付け後、スクリーンの状況を見ながら周期を決めて下さい。また、スクリーンが破れている場合は、速やかに修理または交換してください。

9. 点検および保守

設備の運転開始時、運転終了時、および運転中に以下のような点検を行ってください。

- (1) ボンネット部からの漏れは無いか。漏れがあった場合は、分解組立要領にしたがって、ガスケットを交換してください。
- (2) プラグ部からの漏れは無いか。漏れがあった場合は、分解組立要領にしたがって、ガスケットを交換してください。また、プラグが管用のテーパードネジの場合は、ねじ山を点検し、異常のあるものは交換してください。

その他、高圧ガス保安法の適用を受ける場合は、法規上の規定に基き検査を実施してください。

10. 分解・組立要領(構造図を参照して下さい)

10.1 分解要領

- (1) 残ガスの置換を行い、内圧がゼロであることを確認して配管よりバルブを外してください。
- (2) ⑤プラグを外してください。
- (3) ⑦ナットを緩めて、④ボンネットを外してください。(サイズが 25A 以下の場合、ボンネットがねじ込み式になっておりますので、これを緩めて外してください。
- (4) ③ガスケット、②スクリーンを取り出してください。このとき、ボンネットおよびボディのシール面に傷を付けないように注意してください。

10.2 組立要領

- (1) 分解した部品のごみ、錆などは充分清掃してください。
- (2) ③ガスケットは新品と交換してください。
- (3) ⑤プラグには、流体に適合したシール剤を塗布してください。また、ねじ込むときは、真つすぐ正しくねじ込み、締め過ぎに注意してください。
- (4) スクリーンが破れているものは修理するか、新品と交換してください。
- (5) 組立は分解と逆の手順で行いますが、ボルトドボンネット(40A 以上)の場合、ナットは対角線上のものから交互に均一な力で締め付け、片締めにならないように注意してください。

④ボンネット(15A～25A)及び⑦ナット(40A、50A)の推奨締め付けトルクは次頁の表の通りです。

サイズ	④ボンネット			⑦ナット			
	15A	20A	25A	40A	50A	80A	100A
推奨締め付け トルク N・m	130～ 140	130～ 140	220～ 230	30～ 40	30～ 40	70～ 80	150～ 180

11. 交換部品

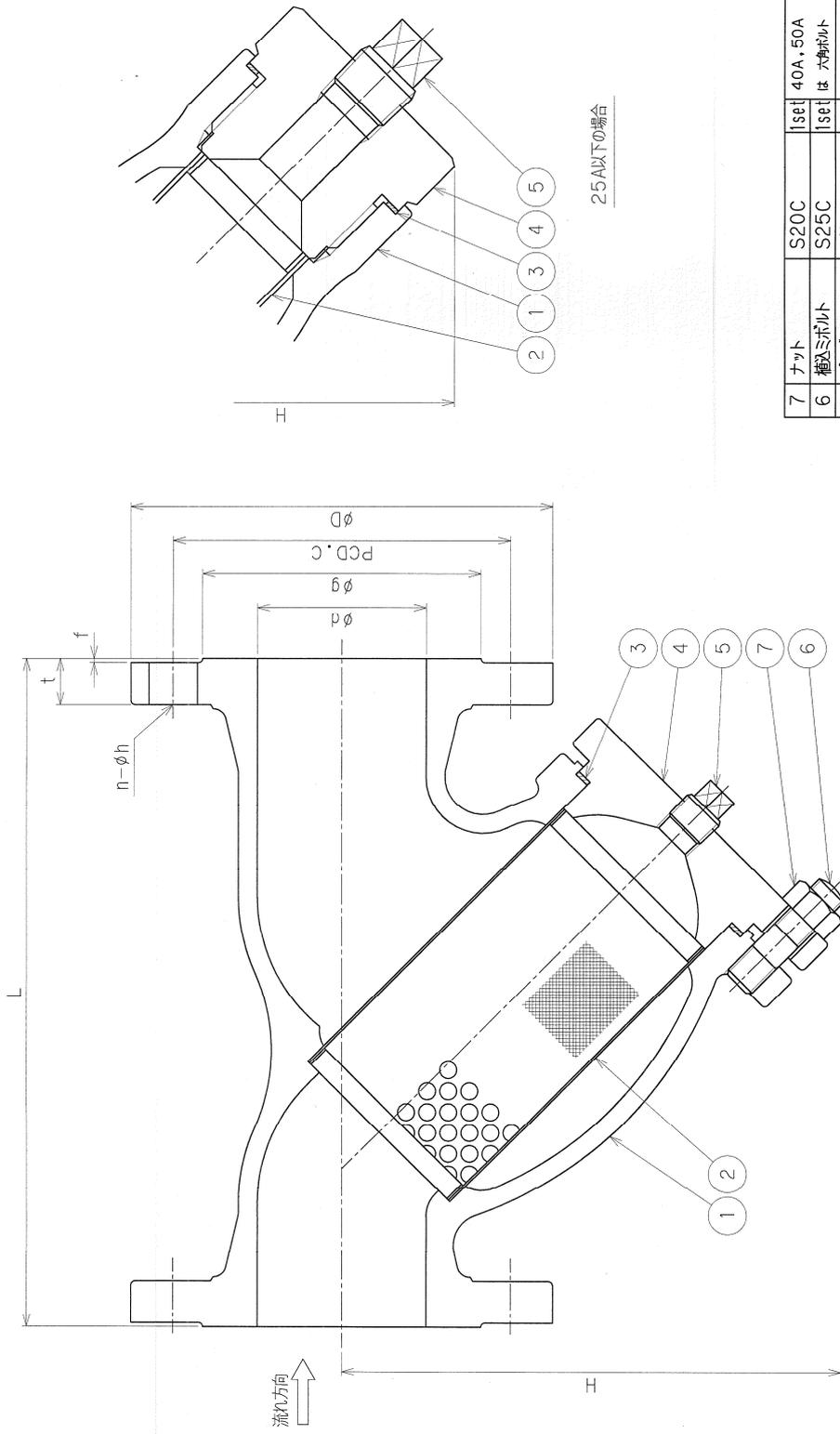
分解検査の際に交換するパッキン部品類は、純正部品を使用してください。
詳細については、宮入バルブ製作所各営業所へお問い合わせください。

12. アフターサービスについて

- (1) 製品に異常が生じた場合
- (2) 製品の修理が必要な場合
- (3) 交換部品が必要な場合

上記のご相談は、宮入バルブ製作所各営業所へお問い合わせ下さい。
※型式・サイズ・図面番号等をお知らせ下さい。

13. 構造図



呼び径	d	L	H	D	C	g	t	f	n-h
15A	15	130	80	95	70	51	14	1	4-15
20A	20	140	80	100	75	56	16	1	4-15
25A	25	160	95	125	90	67	16	1	4-19
40A	40	210	125	140	105	81	18	2	4-19
50A	50	250	155	155	120	96	18	2	8-19
80A	80	320	240	200	160	132	22	2	8-23
100A	100	380	280	225	185	160	24	2	8-23

No.	PART NAME	MATERIAL	QTY.	REMARKS
7	ナット	S20C	1set	40A, 50A
6	極圧ボルト	S25C	1set	は、六角ボルト
5	プラグ	SUS304	1	
4	ボンネット	S25C	1	40AはFCD-S
3	ガスケット	ノンアスベスト	1	25AはTRC1100P
2	スクリュー	SUS304	1	40メッシュ
1	ボディ	FCD-S	1	

SUBJECT
 ダクタイト製 Y 形ストレーナ
 DF-510
 新日本製鋼所
 JIS20KフランジRF

本製品についてのご質問、及び定期点検のご相談、ご依頼は下記の営業所までご連絡ください。



本 社	〒104-0061	東京都中央区銀座西 1-2	(TEL) 03-3535-5575	(Fax) 03-3567-6834
甲府工場	〒400-0206	山梨県南アルプス市六科 1588	(TEL) 055-285-0111	(Fax) 055-285-7175
札幌営業所	(TEL) 011-786-1110	(Fax) 011-786-1120	名古屋営業所	(TEL) 052-951-3860 (Fax) 052-951-3862
仙台営業所	(TEL) 022-295-4670	(Fax) 022-295-4671	大阪営業所	(TEL) 06-6541-8711 (Fax) 06-6541-8718
東京営業所	(TEL) 03-3535-5571	(Fax) 03-3567-6834	九州営業所	(TEL) 093-921-0981 (Fax) 093-921-0984